

事例調査のポイント

館名	資料の考え方	運営組織体制	相乗効果	課題
奈良県立図書情報館 図書館＋公文書館	歴史的公文書を「郷土資料」と捉え、公文書という取り扱いをしていない。	「図書・公文書課」という一つの組織で動いている。業務を固定化せず、基本的に全員に同じ業務をやってもらう。	図書館と公文書館の資料を併せ持つことで、色々なテーマで、図書から文書、絵図まで広く見て、知ってもらえる。検索システムの統合により、それらを一元的に扱える。単館の公文書館だったら入りづらいところを、総合情報センターという形で一緒にしたことで、気軽に立ち寄れる。	貴重書庫スペースや燻蒸設備など、必要なスペースや設備をどの程度見込むか。資料の管理と提供に対する考え方について、専門職同士の意識の摺り合わせをどのように進めるか。
三重県総合博物館 博物館＋公文書館	歴史的公文書を「歴史的資料」の一つとして、博物館の中に収蔵している。	経営戦略広報課、展示・交流事業課、調査・資料情報課という3課体制で、いずれにも専門職員（学芸員）がいる。専門職員は総合研究分野、自然研究分野、人文研究分野の3つの分野に分かれ、アーカイブズ学や資料情報学の専門家もいる。分野横断した勉強会を行っている。	ノウハウの相互活用（展示は博物館が、目録は公文書館がノウハウを持っている）。多分野の資料が一緒にあることで、目的の違う利用者が館を訪れ、出会いが生まれる。例えば三重の歴史というキーワードから新しい研究の方向性が生まれる可能性がある。図書館、美術館と隣接した「文化交流ゾーン」を形成。	資料の仮置きスペースなど、必要なスペースをどの程度見込むか。資料の管理と提供に対する考え方について、専門職同士の意識の摺り合わせをどのように進めるか。